

伏見町再開発

基本構想検討委が初会合

基本計画に意見反映へ

JR福山駅前、伏見町の再開発事業で策定する基本計画の中に反映させる意見について話し合う「基本構想検討委員会」の第一回会合が三日、福

山市内で開かれた。再開発事業を実施する福山市伏見町市街地再開発準備組合（藤本慎介理事長）とコーディネータ

ルタンツ（大阪市、西田修社長）が基本計画を策定するにあたり、各分野の専門家や地権者から意見を聞き、その声を計画に反映させようと立ち上

げた。委員は藤本理事長や西田社長のほか、学識者や経済界、地権者などから十人の委員が選ばれた。委員長には全国市町村再開発連絡協議会顧問の横島毅氏を選出した。

初会合では福山市からの出席者が駅前など中心市街地整備事業の現状について説明したほか、コーディネータが考えているまちづくりの構想について説明した。

その後、委員が一人ずつまちづくりに対する思いを述べた。その中には「賑わいがある活気のある町を」「歩いて楽しい

いた。また「キーワードはお城と高齢者」との意見も出て、文化を取り込んだまちづくりを指摘する声が出た。高齢者については健康に関する施設や子どもたちと触れ合うことができる施設の必要性についても意見が出た。そのほか旧繊維ビル跡地の建設中の「アイヌ又福山」との違いを打ち出す必要について言及した意見もあった。

九月下旬に予定される次回会合では伏見町のまちづくりについて具体的な議論を行う。十月頃に予定される三回目の会合で委員会としての意見をまとめる。準備組合ではこれと並行して地権者の意見を聴取する作業も進めている。これを受けて準備組合とコーディネータで基本計画の素案を年内に策定する予定としている。その後、二年以内を目標に都市計画決定のメドをつける。



基本構想検討委の初会合

2010年8月4日（金） 太陽新聞